

# 不二

一般版

第37回不二現代書展成績発表表

# 今月の競書課題

専門部 会友へ準八段

今月の出品期間 4月1日(月)～4月10日(水)必着

## 漢字半紙

左の語句を、半紙を縦使用、自運縦書き。(書体自由)

## 温慈恵和

温慈恵和

〔出典〕「鳴鶴作品草稿集Ⅰ」 日下部鳴鶴

## かな半紙

左の語句を、半紙を縦使用、自運縦書き。(仮名用料紙の使用も可)変体かなの使用、漢字・かなの書き換え自由

空蟬の世にもにたるか花ざくらさくと見しまにかつちりにけり

〔大意〕花ざくらははかないこの世によく似ていることであるよ。咲くかと思つて見ている間に、もう片はしから散つてしまったことであるよ。

〔出典〕古今和歌集 卷二 春下 73 読人知らず

## 新和様半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。(漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

春のうみに淡路島かけ大きなり山には垂りてにぐる綿雲

〔大意〕のどかな春の日、鳴門から瀬戸内海を望むと、淡路島が大きく見え、山には雨が降っているのか、うす黒い雲が掛かっている。

〔作者〕中村憲吉(二八八九～一九三四)

〔出典〕「中村憲吉歌集」岩波文庫

5月号課題予告	
漢字半紙	人明謙恕 (鳴鶴作品草稿集Ⅰ)
かな半紙	さつきまつ花橘のかをけば昔の人の袖のかぞする (古今和歌集卷二夏139)
新和様半紙	あかときの四時に鐘して起きいづる山寺のそらや星ちかくあり (中村憲吉)
漢字条幅	霜禽欲下先偷眼 粉蝶如知合斷魂 (鳴鶴作品草稿集Ⅰ)
かな条幅	なつころも花のたもとにぬぎかへて春のかたみもとまらざりけり 千載和歌集卷三夏136
新和様条幅	春されば道の隈々おのづから山吹咲けり大原の里 (伊藤左千夫)

※課題及び課題の文字は変更することもあります。

## 漢字条幅

左の漢詩の傍線部の十四字を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。(書体自由)

衆芳搖落獨暄妍 占盡風情向小園  
疎影橫斜水清淺 暗香浮動月黃昏  
霜禽欲下先偷眼 粉蝶如知合斷魂  
幸有微吟可相狎 不須檀板共金尊

疎影橫斜水清淺  
暗香浮動月黃昏

〔読み〕疎影横斜して水清浅。暗香浮動して月黄昏。

〔大意〕疎らな(梅の)枝が清く浅い水に斜めに影を映し、ほのかな香りがおぼろ月の中にどこからともなく漂ってくる。

〔出典〕「鳴鶴作品草稿集Ⅰ」より「山園小梅(林逋)」

## かな条幅

左の和歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。(変体かなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

花ざかり春のやまべを見わたせば空さへにはふ心ちこそすれ

〔大意〕満開の桜の時期、山を見渡すと頂上の方まで桜色に染まっており、空までが香りに包まれているように思える。

〔出典〕千載和歌集 卷一 春上 51

## 新和様条幅

左の短歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。(漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

青苔に花散る庭におり遊ぶ雀の子二つ朝の静けさ

〔大意〕早朝の庭に雀の子が二羽やってきて遊んでいる。そのさえずりが朝の静けさを一層感じさせている。

〔作者〕伊藤左千夫(二八六四～一九三三)

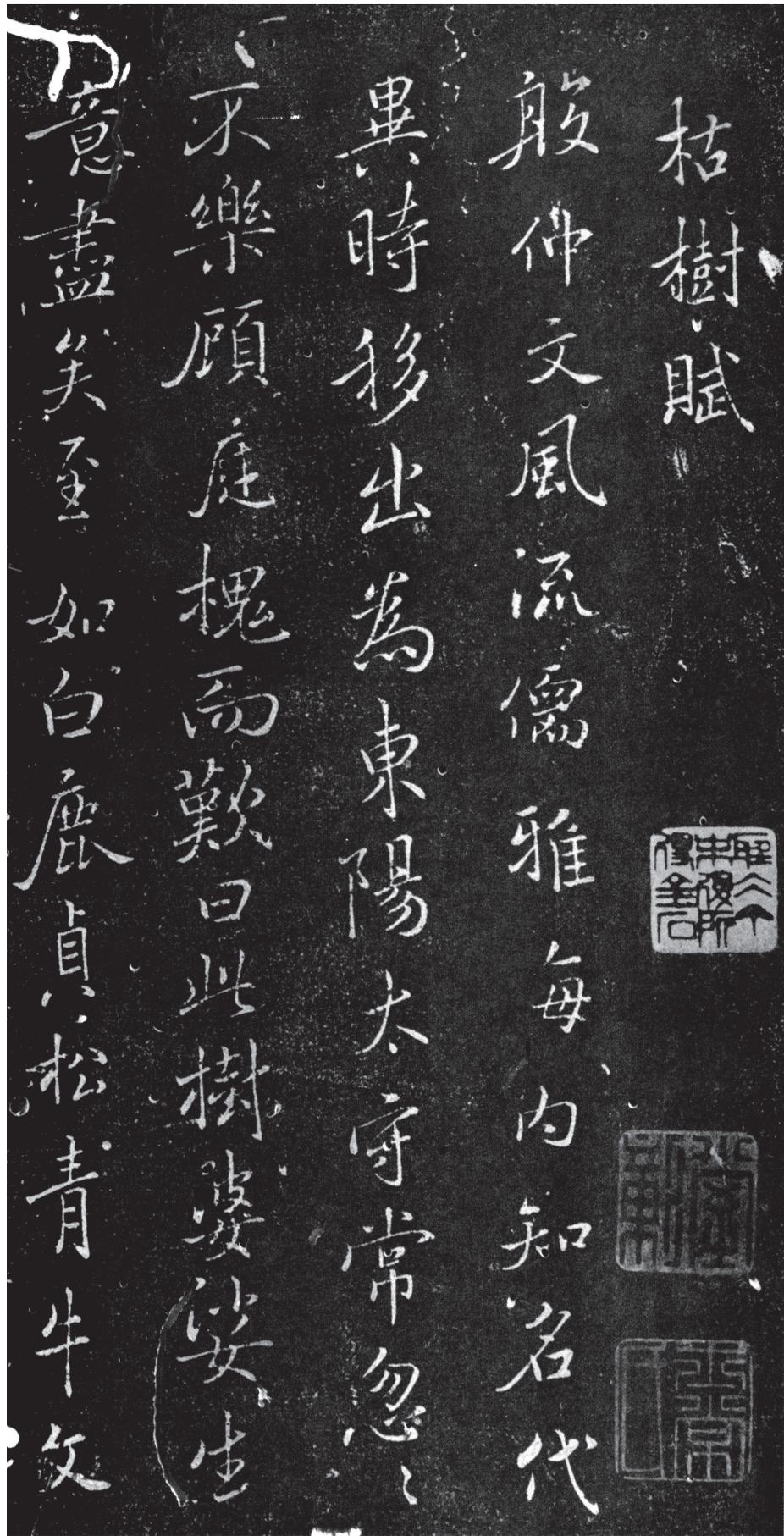
〔出典〕「左千夫歌集」岩波文庫

自運⇨与えられた課題語句を自運作品として用紙と筆を選び墨の磨り工合を工夫し、書作品として造型すること。それ故、先生に手本を書いてもらうことは避けたい。作品制作に当っては、古典からの集字などを試みて始めるのもよい。参考図書としては、現代字体字典(講談社)、五體字類(西東書房)、大字典(講談社)、古典かな字鑑(書藝文化新社)、広辞苑(岩波書店)、古語辞典(旺文社)などを見たい。

枯樹賦 褚遂良

(28ページ参照)

殷仲文。風流儒雅。海内知名。代異時移。出為東陽太守。常忽々不樂。顧庭槐而歎曰。此樹婆娑。生意盡矣。至如白鹿貞松。青牛文(梓)。



枯樹賦 殷仲文は、風流の儒雅にして、海内に名を知らる。代異なり時移り、出でて東陽の太守と為る。常に忽々として樂しまず、庭の槐を顧みて歎じて曰く、此の樹婆娑として、生意尽くと。白鹿の貞松、青牛の文梓の如きに至りては、

漢字半紙 専門部(五段)準初段)

『枯樹賦』より「風流儒雅」の四字を臨書しなさい。

風流儒雅

小久保嶺石臨

『枯樹賦』 褚遂良(五九六〜六五八)  
風流儒雅ふうりゅうじゆが

〔読み〕 風流の儒雅ふうりゅうじゆが

〔大意〕 風雅を解する学者。

〔解説〕

○初唐の三大家である褚遂良三十五才の行書。

○初唐の書法は、王羲之が神格化されており、蘭亭序に見られるたおやかさ、書線の鋭さ、厳しさがある一方、俯仰法を用い、褚遂良独自の書法を切り開いていく姿勢も見られる。

○筆遣いに見られる多彩な表現を味わいながら臨書しよう。

※俯仰法：手首の俯(下に向ける)と仰(上を仰ぐ)による筆遣い。手首の返しを利用して書く書法で、概して起筆の逆入から始まり、送筆では筆の進む方向に筆の軸を倒す書き方。

〔習い方〕

風：蘭亭序の書法に基づいている。風構えは鋒を吊り上げ引き締めて反る。厳しい構えに対して、内部は柔らかく。

流：隣の1画目の点は書かない(筆写体)。三水は2・3画目を続けている。偏と旁をずらしながら、太さに変化をつけてバランスを取っている。

儒：第1画の「ノ」は側筆を用いた隷書のような書き方。旁は「而」を上下に重ねている(筆写体)。

雅：「牙」の4画目は縦面からつながり良く。隹は「厶」のあとに「厶」を書く(筆写体)。

〔用具・用材〕

筆 羊毫筆

墨 頭微無間

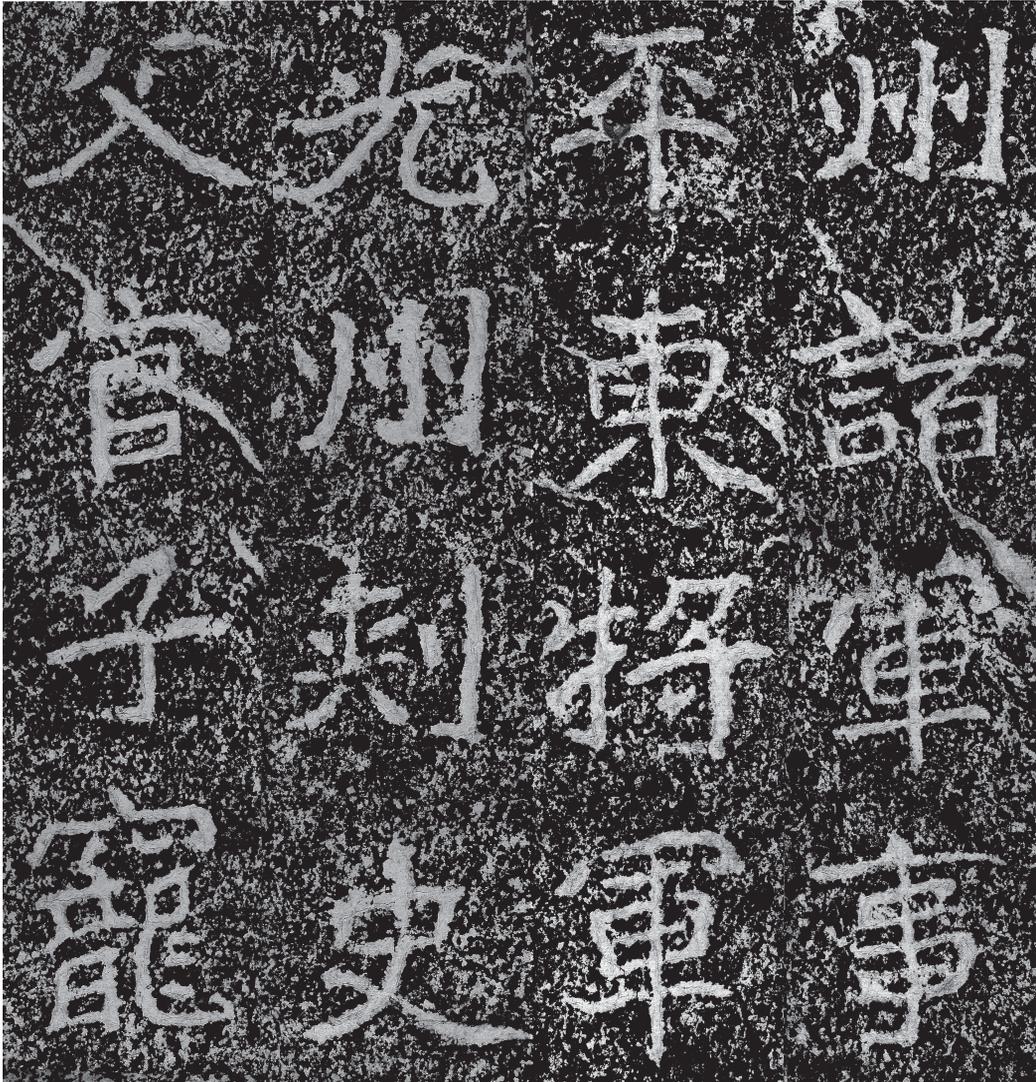
用紙 松雪

(習い方は29ページ)



鄭羲下碑 鄭道昭

(28ページ参照)



州諸軍事  
平東將軍  
光州刺史  
父官子寵

〔督光〕  
州諸軍事・  
平東將軍・  
光州刺史たり。  
父官し、子寵せられ、

漢字半紙（1級〜5級）  
『鄭羲下碑』より「父官子寵」の四字を臨書しなさい。

永井香樹臨

父 官  
子 寵



『鄭羲下碑』 鄭道昭（？〜五一六）

父官子寵

〈読み〉父官し、子寵せらる

〈大意〉父は榮官に任ぜられ、子は寵愛を受けた。

〈解説〉

○磨崖碑の代表的なものです。

○円筆（丸味のある）で、素朴で、スケールが大きく、ゆったり書きましよう。

○文字の中の余白に留意して、明るく、おおらかに書きましよう。  
○曲線で、うねる線は長さ、  
おおらかさが表現されま  
す。

【用具・用材】

筆 兼毫 三号

墨 和墨

用紙 手漉漢字用半紙

漢字半紙（6級〜10級）

『犀水行書千字文』より「天地玄黄」の四字を臨書しなさい。

天 地 玄 黄

石橋犀水書

『行書千字文』

天地玄黄（第一句目）

〈読み〉天地玄黄

〈大意〉天は黒色で大地は黄色である。

〈解説〉

千字文の一句目の四文字を書きましよう。

○行書体です。一文字の途中で、鋒先を直したり、補墨したりはせずに書きましよう。

○前面の収筆は、次画の起筆に向かいます。途中、筆を散歩や一休みをさせないで、一文字を書きましよう。

○線の方向、長短に留意しましよう。

○墨は鋒先の根元まで含ませて空気を遮断し、鋒先が割れないようにしたいものです。

（永井香樹）

【用具・用材】

筆 Ⅱ 羊毫三号

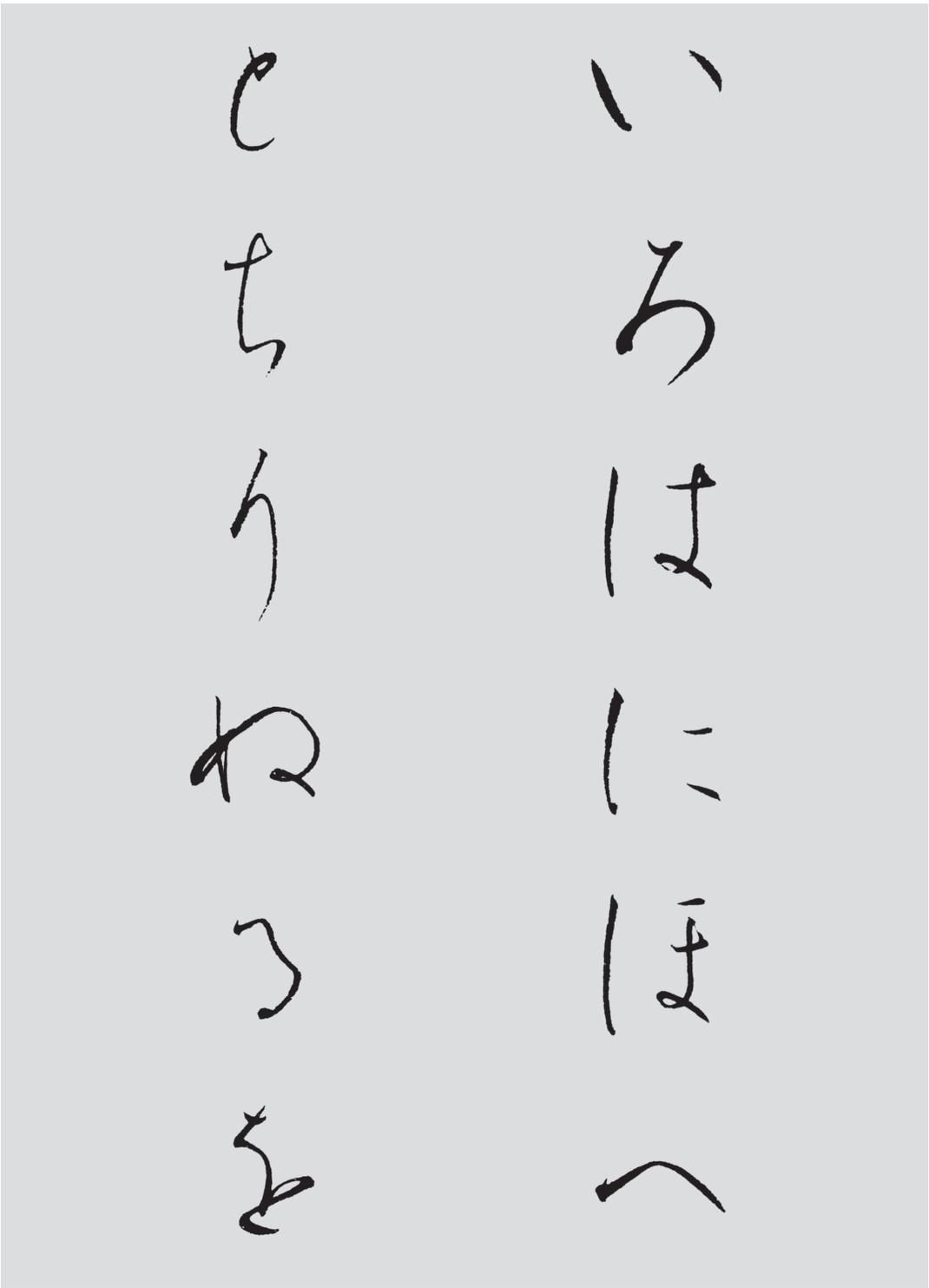
墨 Ⅱ 和墨

用紙 Ⅱ 手漉漢字用半紙

（習い方は30ページ）

かな半紙(6級〜10級)

左の図版を半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。



いろはにほへ  
とちりぬるを

【用具・用材】

筆 かな細字用筆  
墨 かな用和墨  
紙 かな用半紙

〈出典〉

安東聖室「梅雪かな帖(上)」より

〈解説〉

初めてかなに取り組むという人も多いことと思います。「いろは」から始めて、かなの基礎を学びましょう。まず、かなの基本となる中鋒のたて線を説明します。中鋒とは、書いた線の中央を筆の鋒先が通る用筆のことです(左図参照)。

書き始め(起筆)は鋒先を上にしてすつと細く入り、少し圧をかけながら筆を押し広げるように徐々に太め(中太)、その後、筆を引き上げて細く抜きます(収筆)。

筆も線も細くて書きにくいかもしれませんが、次第に慣れてきます。このたて線を練習の最初に書き、文字へと進みます。

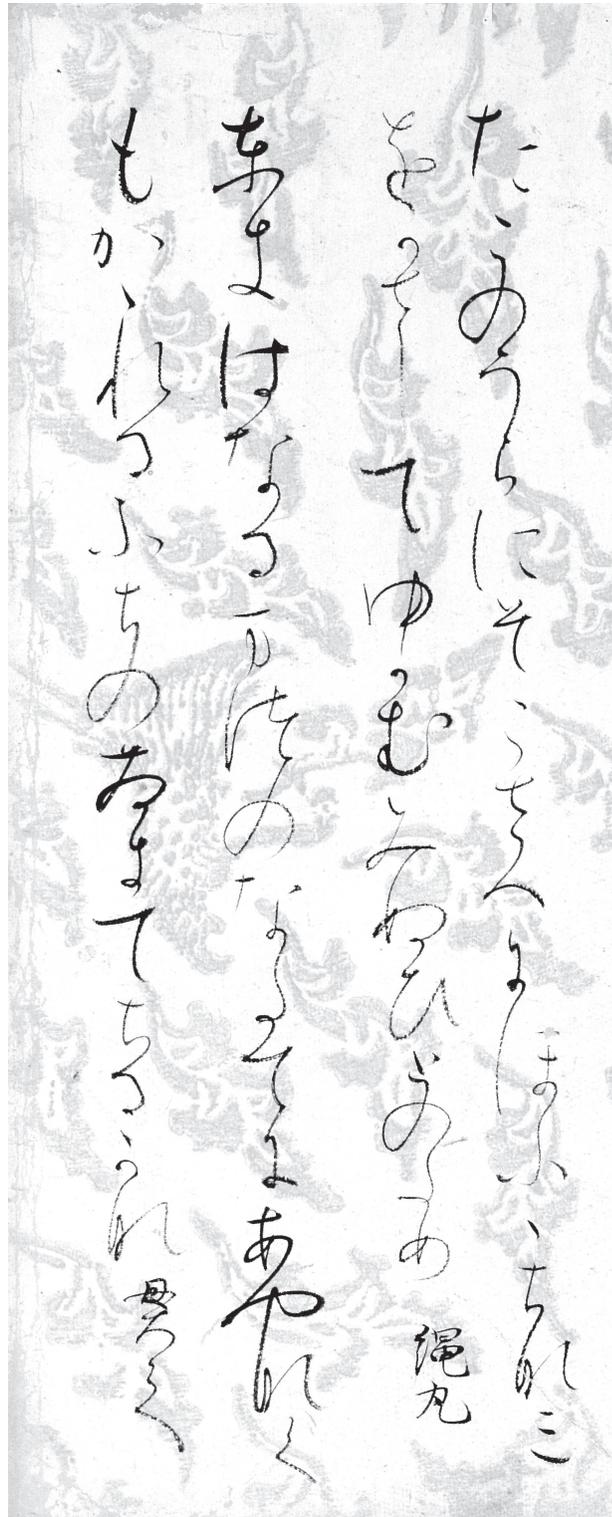
中鋒



(川島史子)  
(習い方は30ページ)

かな半紙 専門部(五段)準初段)

左の『粘葉本和漢朗詠集』より「たこのうらに」から「貫之」までの四行を、半紙を縦に使用して臨書しなさい。 ※原寸には拘らなくてよい。



(原寸)

たこのうらにそさへるち那三を可さしてゆ可むみぬひとの多め 縄丸  
東支はなる万徒のな多て尔あや那くもか、れるふちの散支てちる可那 貫之

〈出典〉『粘葉本和漢朗詠集』 伝藤原行成筆 (28ページ参照)

へうた 多<sup>た</sup>祐<sup>こ</sup>の浦<sup>うら</sup>の 底<sup>そこ</sup>さへにほふ 藤<sup>ふた</sup>波<sup>なみ</sup>を かざして行<sup>ゆ</sup>かむ 見<sup>み</sup>ぬ人のため 内<sup>うち</sup>蔵<sup>くら</sup>縄<sup>なみ</sup>麻<sup>あ</sup>呂<sup>りょ</sup>  
うつろはぬ 松<sup>まつ</sup>の名<sup>な</sup>だてに あやなくも やどれる藤<sup>ふた</sup>の 咲<sup>さ</sup>きて散<sup>ち</sup>るかな 貫<sup>つらゆき</sup>之

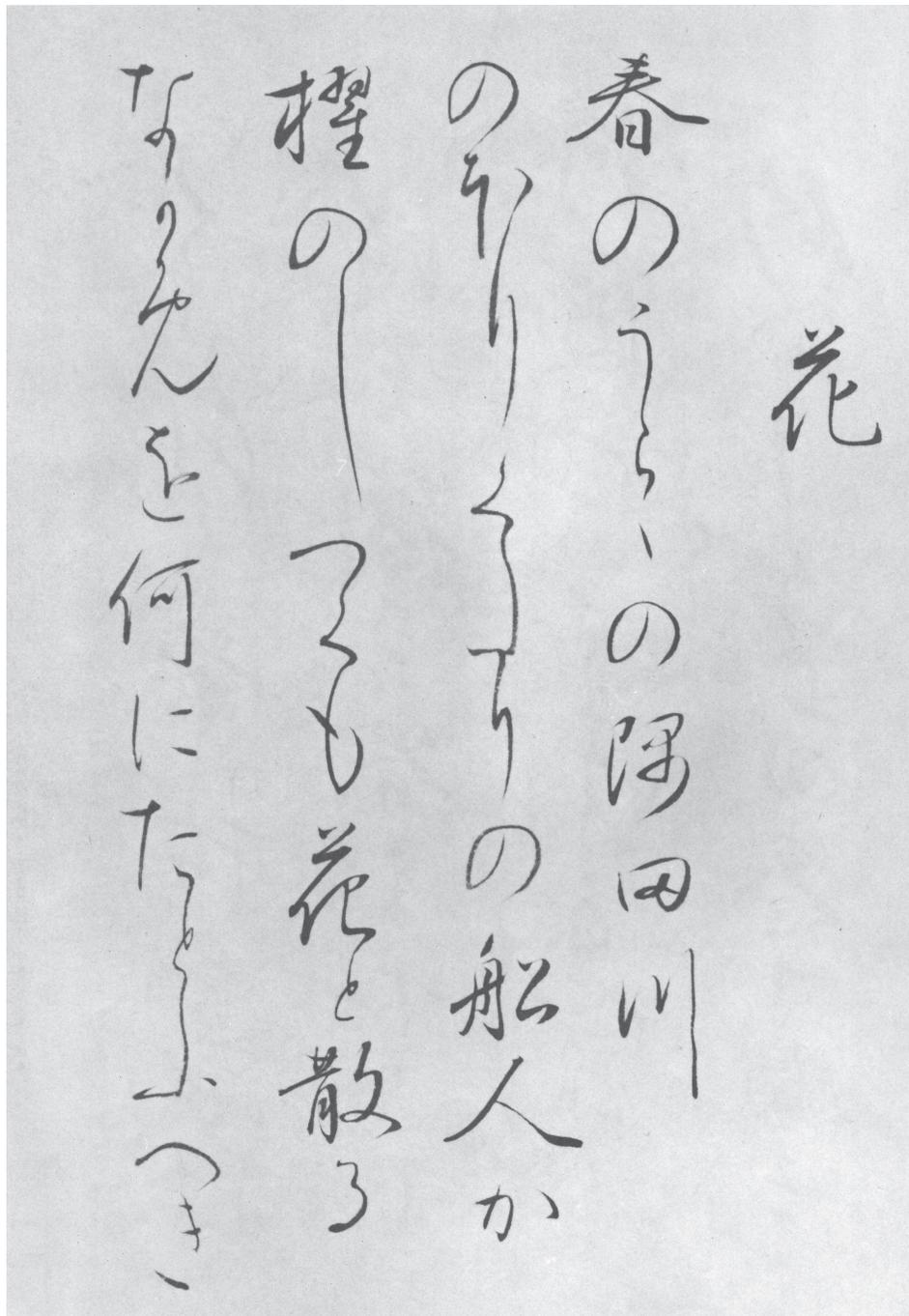
〈大意〉○この多祐の浦に水の底にまで色美しく影を映して咲きほこる藤の花を、かざしにして持つて帰ろう。見に来られなかった人のために。

○いつまでも変わらぬ緑の松の名を挙げるため、松に這いまつわった藤の花が、わけもなく咲いては散ってしまうことだ。



かな半紙（1級～5級）

左の「花」から「何にたとふへき」までを、半紙を縦に使用して臨書しなさい。



花 春のうららの隅田川の本り久多りの船人か權のしつ久も花と散るな可免を何にたとふへき

〈出典〉

文部科学省認定 通信教育  
書道基礎科講座教科書より

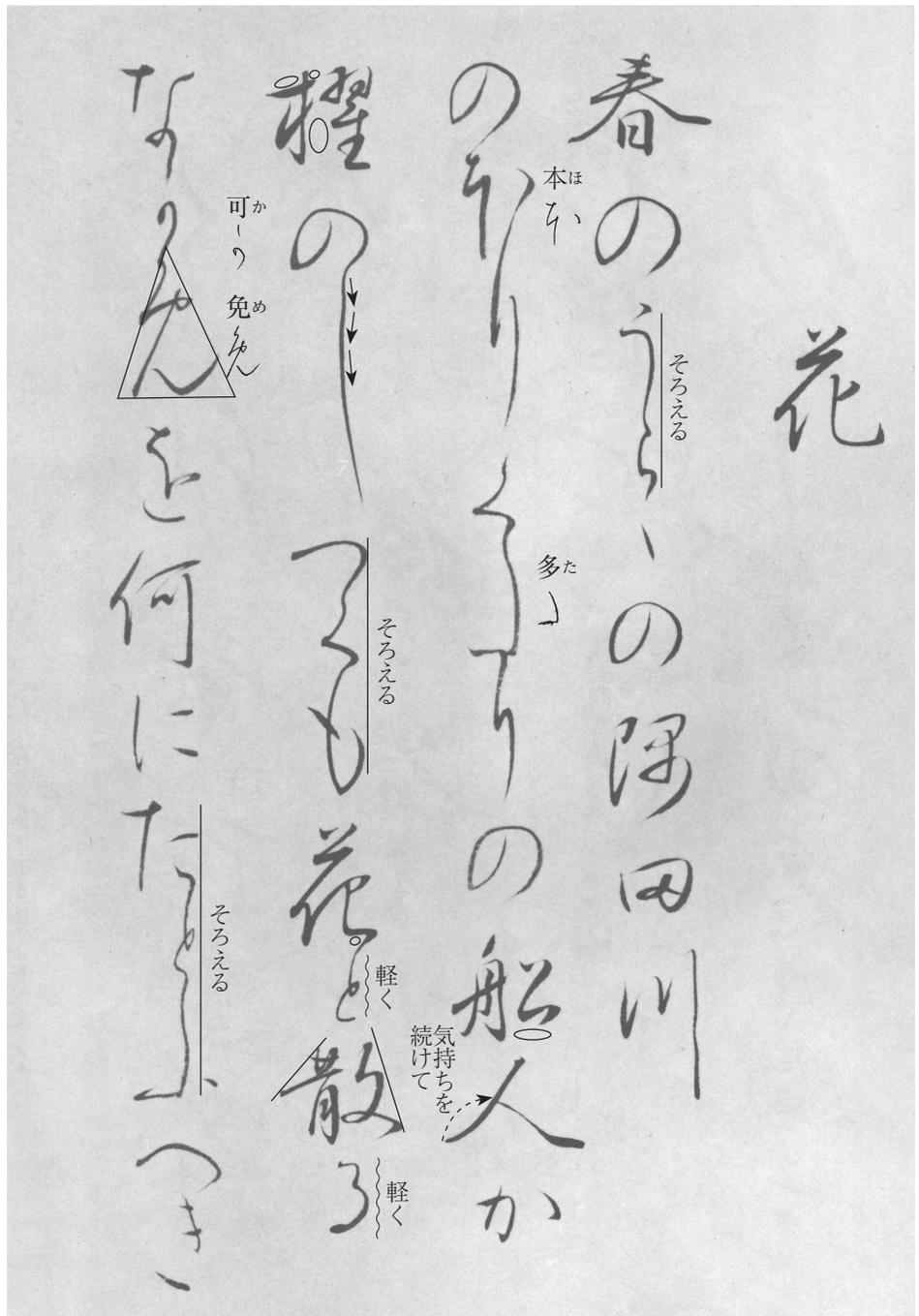
〈うた〉

春のうららの 隅田川  
のぼりくだりの 船人が  
權のしずくも 花と散る  
ながめを何に たとふへき

（武島羽衣詞）

〈大意〉

春の明るくのどかな隅田川。  
川をのぼりくだりしている船  
の船頭さんの權につくしずく  
が、花びらのように散っている。  
この美しい眺めを、何にたとえ  
ることができるだろう。



ポイント

① 漢字の下のかなは軽く書く (添えるように)。

② 二字連綿 「の」「花」と

三字連綿 「の」「花」と



がありますが、二字・三字としっかりとつないで書く。

〈解説〉

春の景色を思い描きながら、のびやかに書いて下さい。

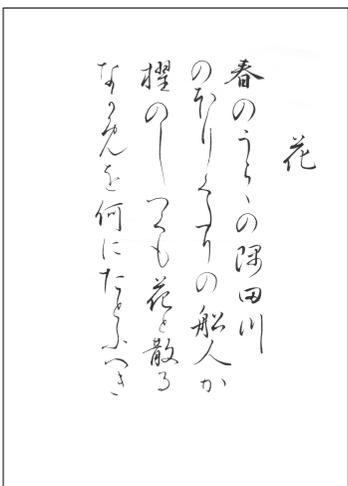
一字一字の文字を美しく書くことは言うまでもありませんが、二字連綿や三字連綿などの「かたまり」も意識して、全体の漢字とかなの調和も考えて書きましょう。

(甲谷景子)

【用具・用材】

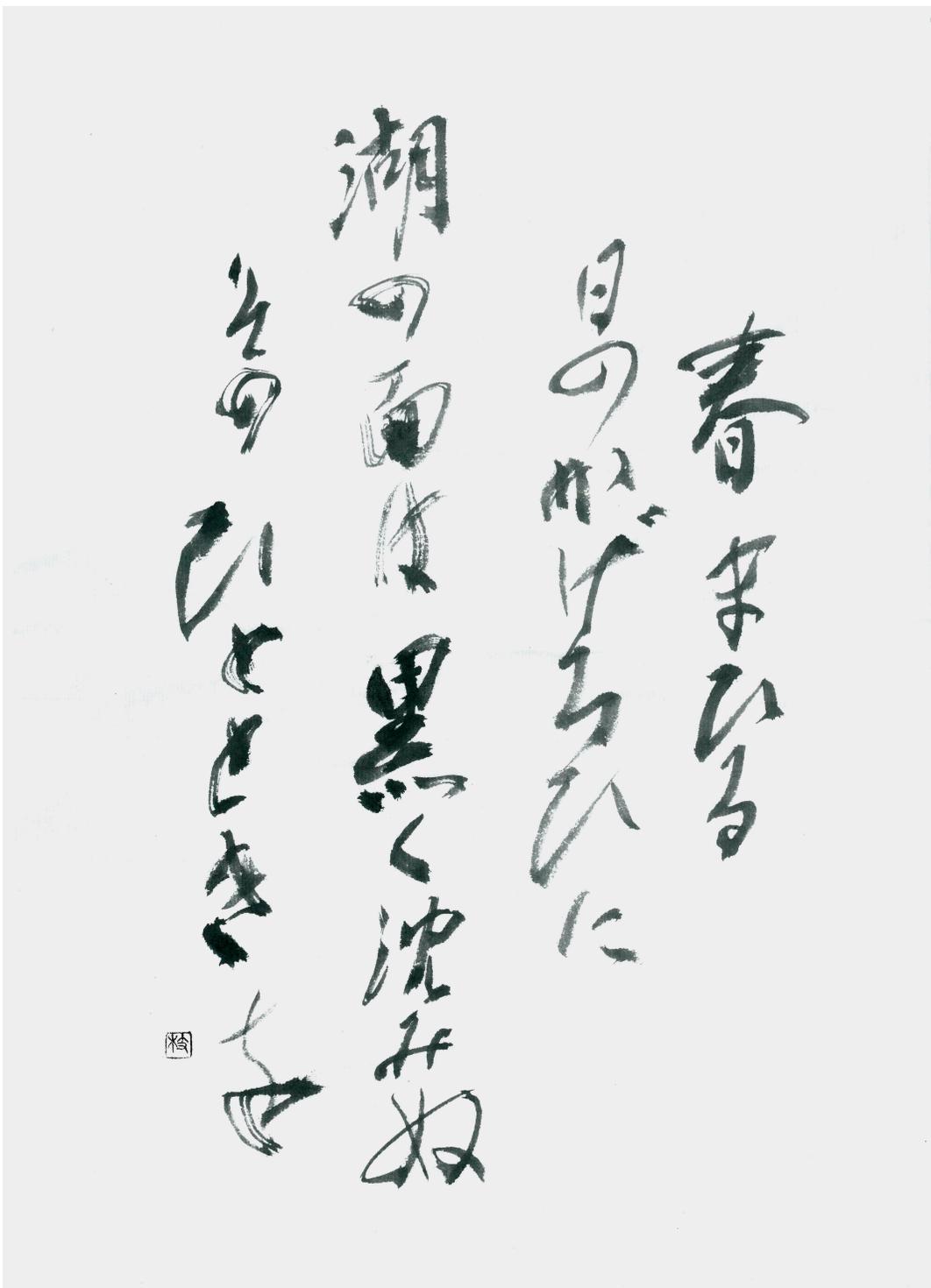
- 筆 〓 かな用小筆
- 墨 〓 かな用和墨
- 用紙 〓 かな用雁皮

〈参考作品〉



(甲谷景子臨)

永井香樹書



春まひる日のかげろひに湖の面は黒く沈みぬそのひとときを

〈出典〉

選集『川のほとり』

古泉千樞 (二八八六〜一九二七)

〈大意〉

春の真昼間に日が陰ると、一瞬にして霞ヶ浦の湖面が黒く沈んだ色になった。

〈解説〉

○漢字を活かしながら、平仮名続きのところは、単語・文節をひとかたまりにして、読みやすくしましょう。

○漢字、潤濁が横並びにならないように留意し、行の響き合いに配慮しましょう。

【用具・用材】

筆 || 小筆を根元までおろす

墨 || 和墨

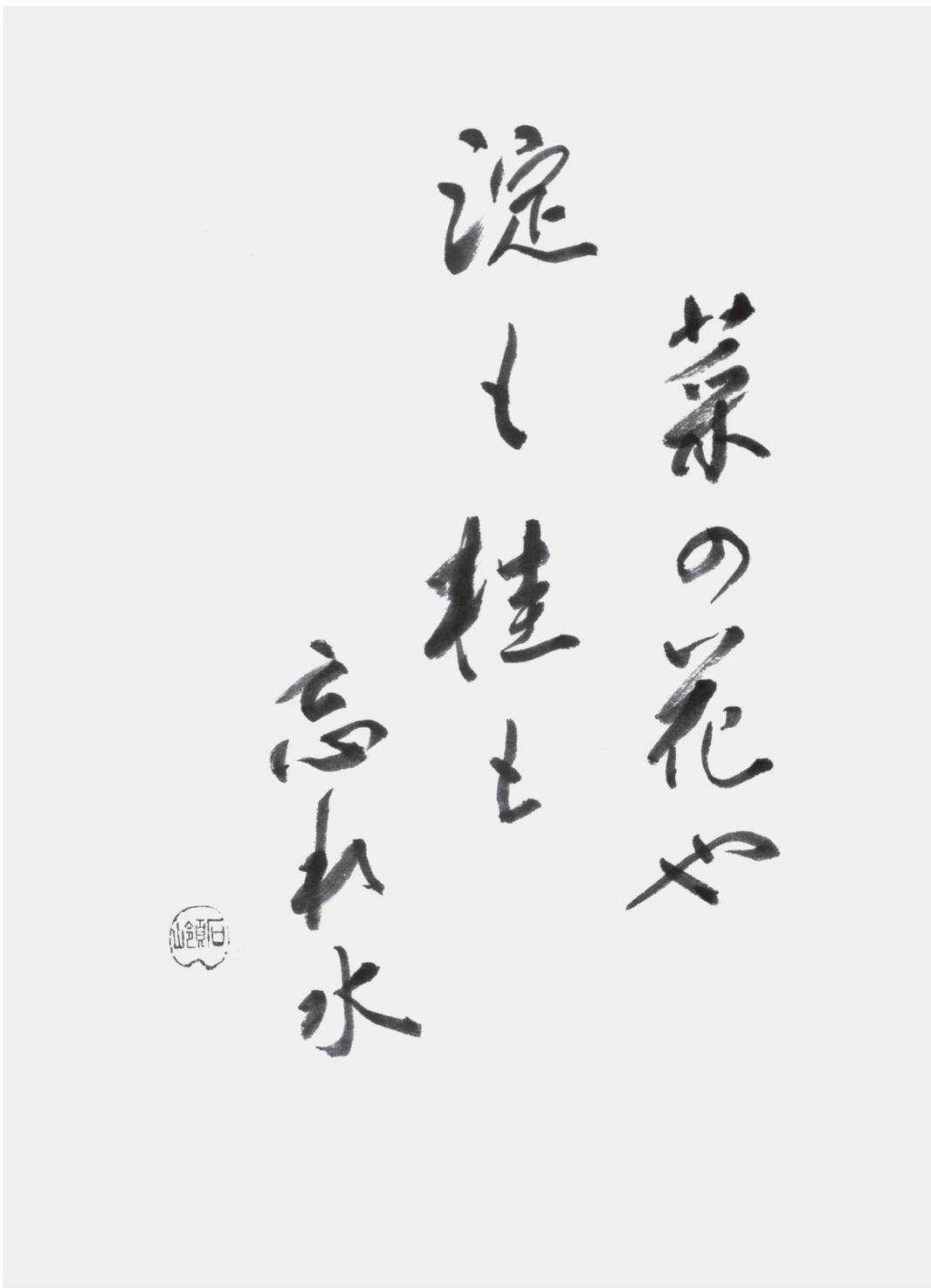
用紙 || 漢字用半紙

(習い方は30ページ)

新和様半紙（1級〜10級）

参考手本 ※半紙を縦にして使用

小久保嶺石書



菜の花や淀も桂も忘れ水

〈出典〉

『初心もと柏』

池西言水（一六五〇〜一七二二）

〈大意〉

春の日、京都東山からの眺望は、淀川も桂川も満目の菜の花盛りに埋もれて、まるで野中の忘れ水（野中の草に覆われて見えない小さな流れ）となっている。

〈解説〉

手本を鑑賞し、次のことを確認してみよう。

○三行に高低差をつけた構成。初学者向けに、ほぼ同じ幅の間で書いてみた。幅を変えて二つのグループにしてもよい。

○それぞれの行頭・行尾の位置が同じ高さに揃わないようにする。

○字形は概形を意識してまとめ、「も」が二つあるので微妙な変化をつけたい。

○字間に注目し、疎密の変化をつける。三行目は中心軸を右に移動して徐々に行を右に倒すが、文字自体は倒さない。

○文言が発する春の盛りのイメージを表現したい。

【用具・用材】

筆 Ⅱ 羊毫長鋒

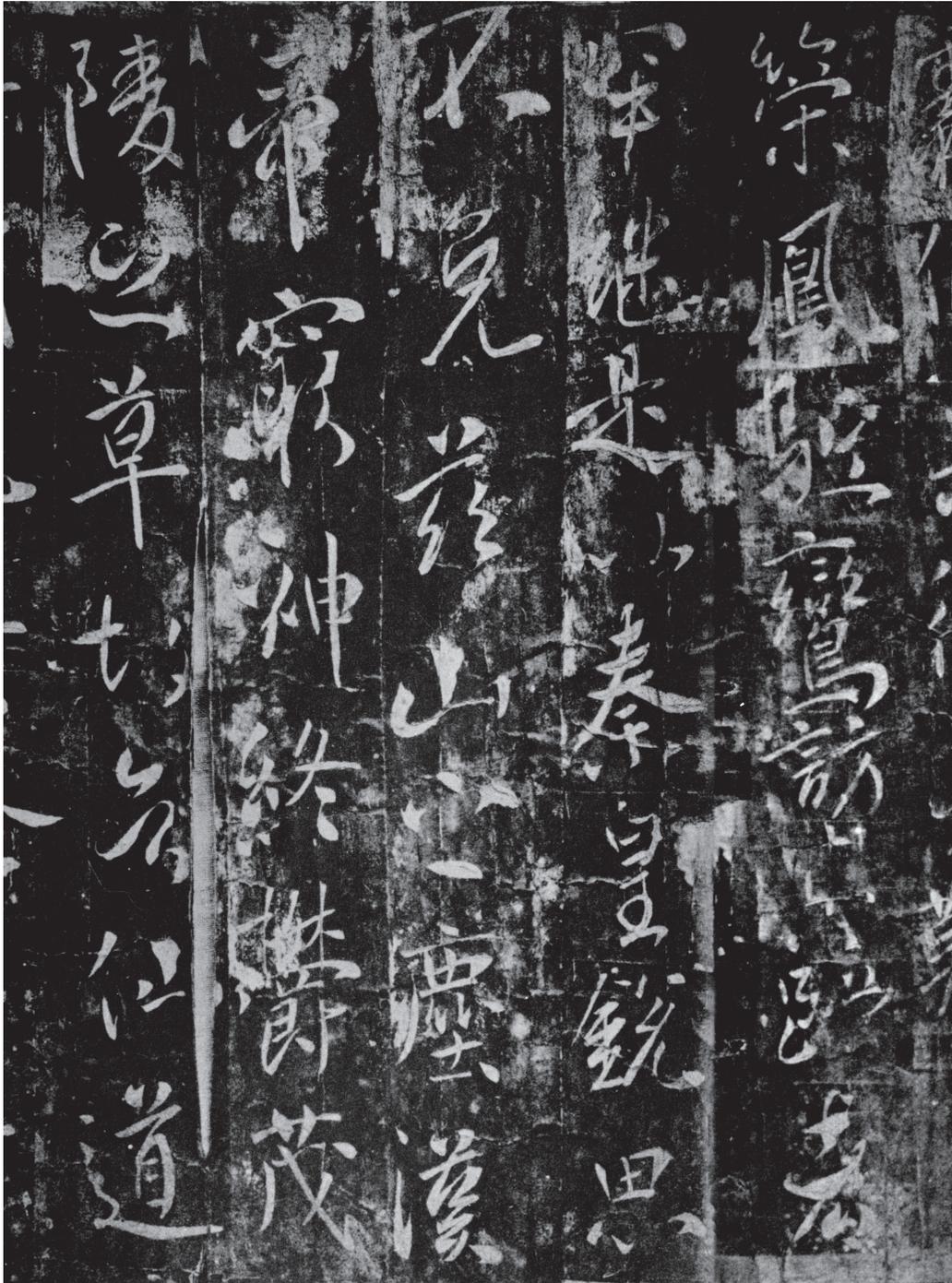
墨 Ⅱ 和墨（松煙墨）

用紙 Ⅱ 松雪

（習い方は30ページ）

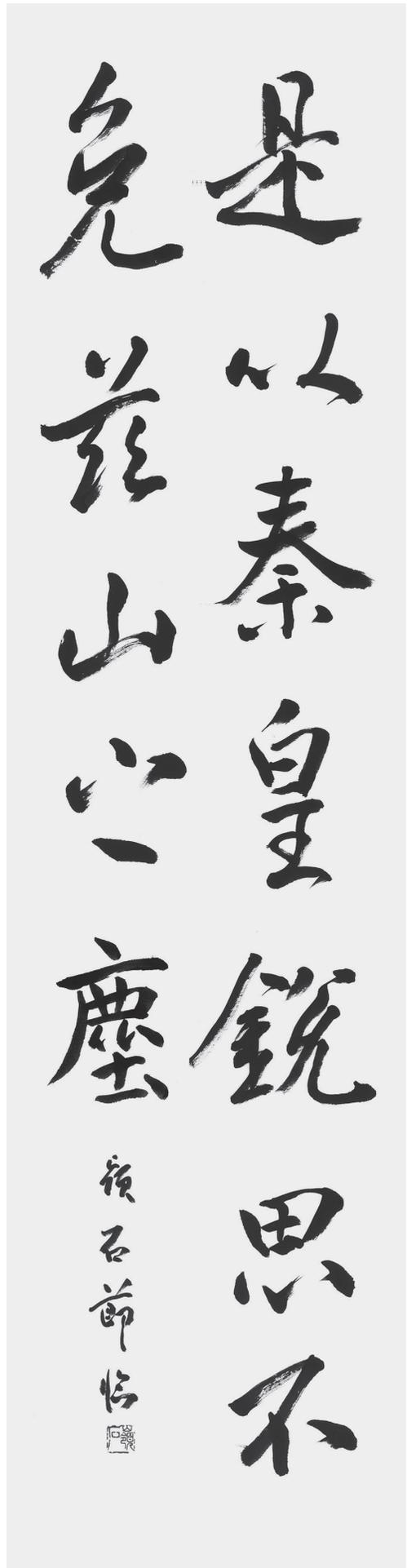
温泉銘 唐太宗

(28ページ参照)



策鳳駢鸞。訪其蹤者  
罕繼。是以秦皇銳思  
不免茲山之塵。漢  
帝窮神。終鬱茂  
陵之草。故知仙道

鳳に策ち鸞を駢り、其の蹤を訪  
う者は繼ぐこと罕なり。是を以  
て秦皇思を鋭くするも、茲の山  
の塵を免れず。漢帝神を窮  
むるも、終に茂陵の草を鬱らし  
む。故に知る 仙道は(紆闊。)



小久保嶺石臨

是以秦皇銳思 不免茲山之塵

〔出典〕『温泉銘』唐 太宗(五九八〜六四九)

〔読み〕是を以て秦皇、思を鋭くするも、茲の山の塵を免れぬ。

〔大意〕秦の始皇帝は道士の説を信じて徐福を蓬萊ノ島につかわし、不死の薬を求めしむるなど、銳意して長生の術を講じたが、遂に死を免れるなくこの山の塵となった。



行書ではこのような書きぶりもある

〔解説〕

拓本の終わりに永徽四年の墨書があり、現存する拓本としては最古となる唐拓。行草体による碑は、太宗による「晋祠銘」と、この「温泉銘」がはじめだと言われている。

○王羲之の書を愛好した。流麗にして適勁な筆致は、迫力があり、名天子に相応しく堂々たる風格が感じられる。

○俯仰法(5ページ参照のこと)を用いてしなやかに。氣勢を重んじて書こう。

【用具・用材】

筆 羊毛

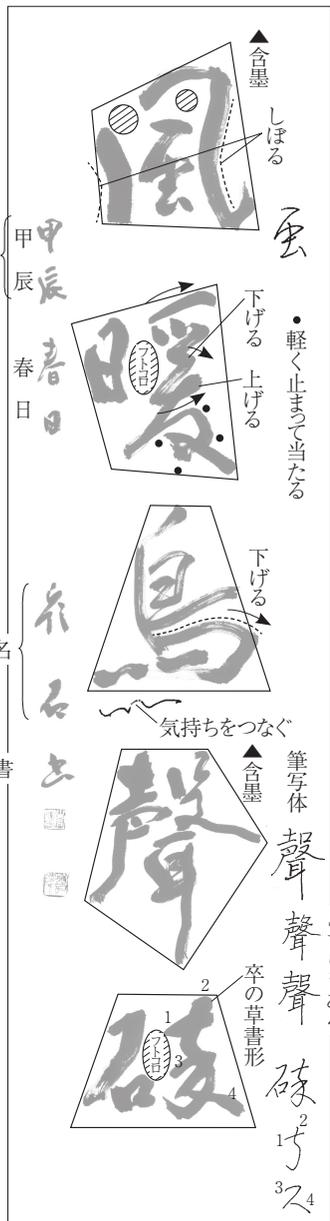
墨 和墨

用紙 和画箋(たて136cm×よこ35cm)



小久保嶺石書

風暖鳥聲碎



こちらもある

〈解説〉

○今月からお手本を参考にして、詩文より五字句を半切に1行で書きます。

○最初に含墨し、3文字目まで墨を継がずに、筆の色々な面を使って書き（八面出鋒）、4文字目で含墨します。  
○文字の概形を捉えて中心を通し、暢びやかに書きましよう。

風：風構えはウエストをしぼるようにする。

暖：フトコロを意識して、大らかにまとめる。

鳥：渴筆は筆を押さえつけずに、ゆっくり墨をしぼり出す。

聲：声の筆写体。面数が多く美しい字形。バランスに気をつけたい。

碎：「卒」の草書形を覚えておくと他にも使える。酔、粹など。

〔出典〕唐 杜荀鶴（八四六〜九〇四？）

〔読み〕風は暖かくして鳥声碎かる

〔大意〕春風は暖かく、鳥の声もはずんであちこちに飛び散るようだ。

〔用具・用材〕

筆 Ⅱ 羊毫筆

墨 Ⅱ 和墨

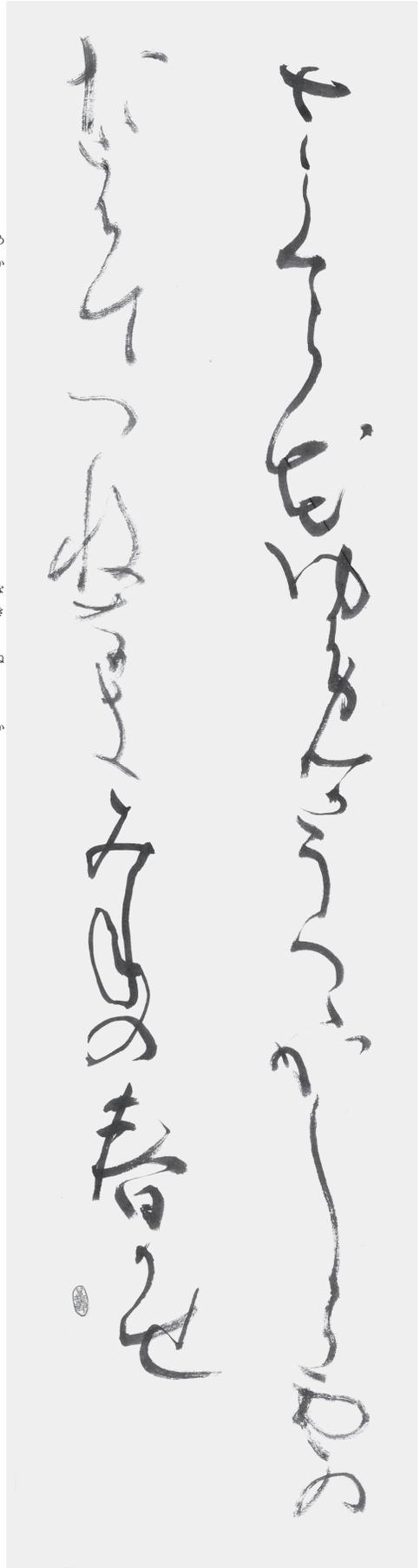
用紙 Ⅱ 中国画仙（たて136cm×よこ35cm）

かな条幅 専門部 (五段く準初段)

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

(用紙かな用画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm)



須山万寿書

さくら花ゆめ可うつ、かしら雲のたえてつね奈支み年の春可せ

〈うた〉桜花夢かうつつか白雲の絶えてつねなき峰の春風 〈出典〉『新古今和歌集』巻二 春下 139 藤原家隆朝臣

〈大意〉桜の花と夢を見て見たのは、夢であったのか現実であったのかわからない。桜の花と夢を見て見た白雲が、今は消え去って、ただ無常を誘う峰の春風ばかりが吹いていることだ。

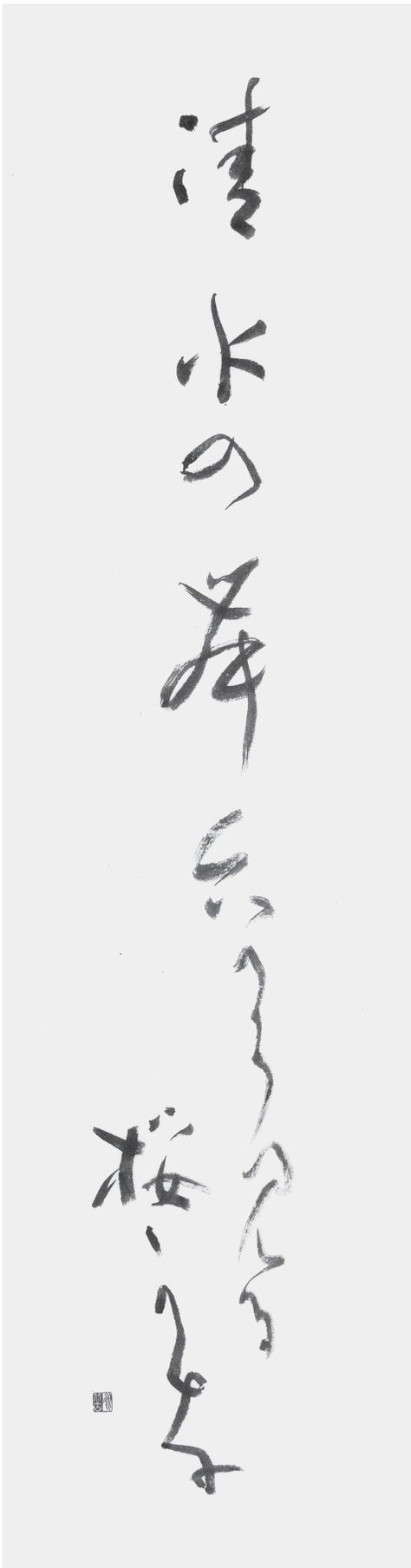
(解説は31ページ)

かな条幅 (1級く10級)

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

(用紙かな用画仙紙半折・たて136cm×よこ35cm)



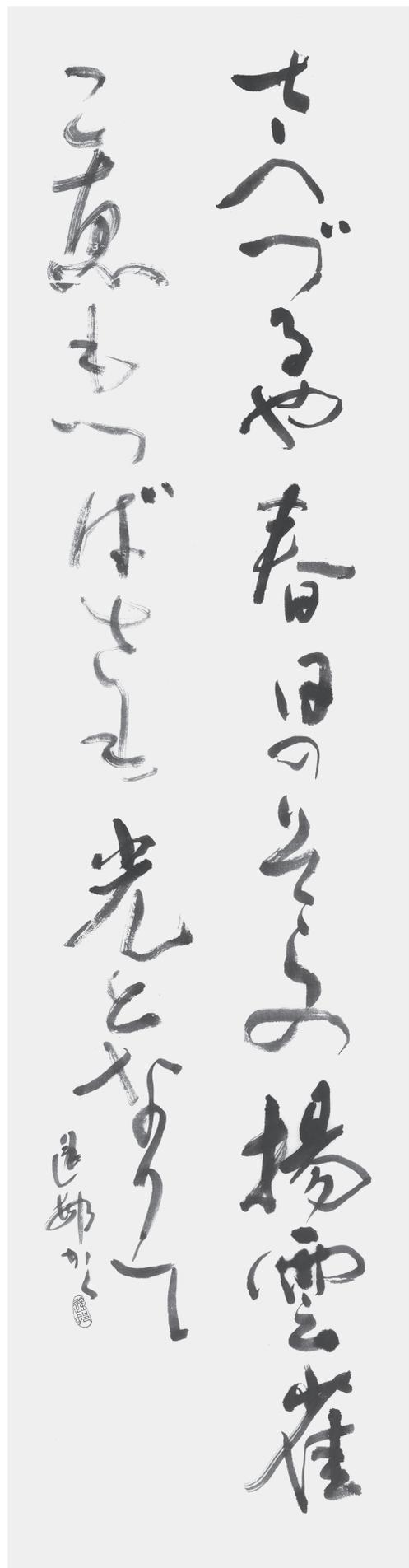
中島永岳書

清水の舞台可ら見る桜可奈

〈うた〉清水の舞台から見る桜かな (作者) 松尾芭蕉 (一六四四く一六九四)

〈大意〉京都・清水寺の境内は薄紅色に彩られ「清水の舞台」から見下ろす桜は庄巻・絶景である。

(解説は31ページ)

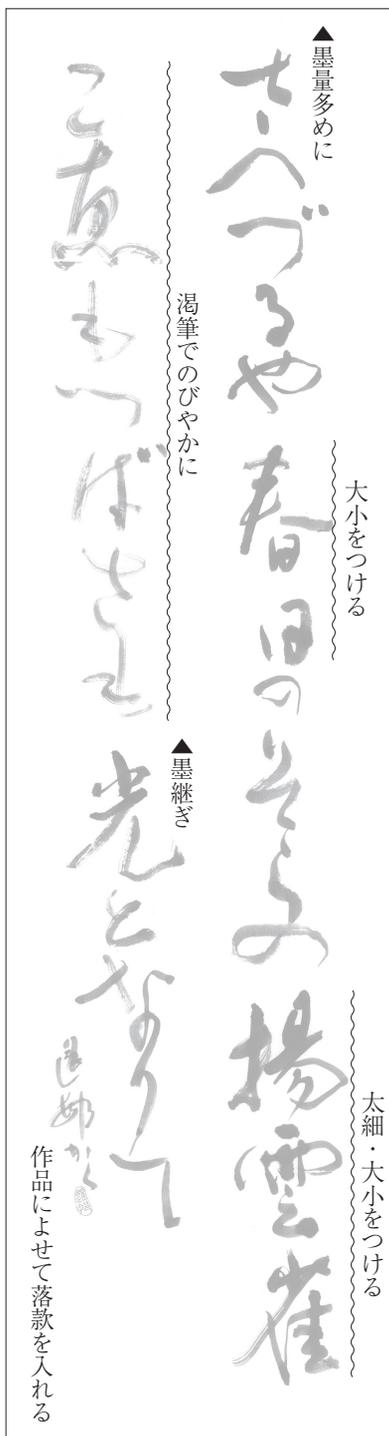


東 仲 遙 邨 書

さへづるや春日のそらの揚雲雀あけひばりこゑもつばさも光となりて

〔作者〕 太田水穂（一八七六―一九五五）

〔大意〕 春うらかな日、空高く舞い上がって鳴いているヒバリの声や姿が、霞の空にとけ込んで、光のようにみえた。



▲墨量多めに

大小をつける

渴筆でのびやかに

▲墨継ぎ

太細・大小をつける

作品によせて落款を入れる

〔解説〕

- 墨量の変化、線の太細の変化・余白の広狭により動勢をつくる。
- 春日、揚雲雀（漢字二、三字熟語）は大小・太細をつけて、重くならないようにする。
- ひらがなの連続のときは、強さも加えて、立体感を出したい。

【用具・用材】

筆 兼毫和筆

墨 和墨

用紙 特選新和様（たて136cm×よこ35cm）

〈 清 書 用 紙 〉

教室名				
氏 名				

実用書 (随意課題)

度々お騒がせして申しわけございません	取り急ぎ申しあげます	拝啓 急呈 前略 冠省
--------------------	------------	-------------

拝啓 急呈 前略 冠省 / 取り急ぎ申しあげます / 度々お騒がせして申しわけございません

切りとって提出してください (コピーも可)

佐藤友理書 (『美しい手紙』三多軒より)

- 手本のペン字を必ず小筆で書くこと。文字の大小の具合に気をつけたい。
- 出品用紙は、左側に示した清書用紙でも、これをコピーして書いても結構です。洋紙に書くことをここでは原則とします。

〈参考の小筆〉

・ 玉梓・下筆春蚕食葉声・選毫圓健

※ 詳しくは三多軒へお問い合わせください。  
 TEL: 〇三 (三三六五) 五四九三  
 FAX: 〇三 (三三三九) 八二七三

月別出品券を貼る

・ 月別出品券 (69 ページ) とバーコード出品券 (段級欄に「実用」と記入して、月別出品券の下に) を左下に貼付してください。

↓ バーコード出品券はこの下に貼ってください

那羅~波浪不能没の209字を清書して出品。

那羅摩睺羅伽人非人等故受是璎珞即  
 時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非  
 人等受其璎珞分作二分一分奉釋迦牟  
 厘佛一分奉多寶佛塔无盡意觀世音菩  
 薩有如是自在神力遊於娑婆世界尔時  
 无盡意菩薩以偈問曰

(緊)

那羅。摩睺羅伽。人非人等故。受是璎珞。即  
 時觀世音菩薩。愍諸四衆。及於天龍。人非  
 人等。受其璎珞。分作二分。一分奉釋迦牟  
 厘佛。一分奉多寶佛塔。無盡意。觀世音菩  
 薩。有如是自在神力。遊於娑婆世界。爾時  
 無盡意菩薩。以偈問曰

(緊)

那羅・摩睺羅伽・人・非人と等を愍れむが故に、この璎珞を受くべし」と。  
 即時、觀世音菩薩は、諸の四衆と及於天・竜・人・非人と等を愍みて、その璎珞  
 を受け、分ちて二分と作し、一分は釈迦牟尼に奉り、一分は多寶仏の塔に奉  
 れり。「無尽意よ、觀世音菩薩には、かくの如き自在の神力ありて、娑婆世界に  
 遊ぶなり」と。その時、無尽意菩薩は偈をもつて問うて曰わく「世尊は妙相を  
 具えさせたまへり われ今、重ねて彼を問いたてまつる『仏子は何の因縁にて  
 名づけて觀世音となすや』と。妙相を具足したまへる尊は 偈をもつて無尽意に

〔解説〕

今月も法華經より、妙法  
 蓮華經觀世音菩薩普門品第  
 二十五を淨書いたします。

觀世音菩薩普門品は、元  
 は単独の經典「觀音經」で  
 したが、後に法華經の第二  
 十五番目の章(品)に取り  
 入れられました。今月の箇  
 所は、散文のあと「世尊妙  
 相具」からの五言の韻文形  
 式(偈)が続きます。

偈の部分については、一  
 行十七字の本会用紙では、  
 ヨコ罫を無視して、五言四  
 句を間隔をあげながら書さ  
 ます。

(1-4) 睺  
 (1-14) 璎

(2-6) 薩  
 (4-1) 厘

(4-4) 分  
 (4-7) 寶

世尊妙相具 我今重問彼 佛子何因緣 名為觀世音  
 具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所  
 弘誓深如海 歷劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願  
 我為汝略說 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有苦  
 假使興害意 推落大火坑 念彼觀音力 火坑變成池  
 或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能沒

答えたもう。「汝よ、観音の行の善く諸の方所に應ずるを聴け。弘誓の深きこと海の如く、劫を歴るとも思議しえざらん。多千億の仏に侍えて、大清淨の願を發せり。われ汝が為めに略して説かん。名を聞き及び身を見て、心に念じて空しく過さざれば、能く諸有苦を滅せん。假使、害う意を興して、大なる火坑に推し落さんも、彼の観音の力を念ぜば、火坑變じて池と成らん。或いは巨海に漂流して、竜・魚・諸の鬼の難あらんに彼の観音の力を念ぜば、波浪も没すること能わざらん。

世尊妙相具 我今重問彼 佛子何因緣 名為觀世音  
 具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所  
 弘誓深如海 歷劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願  
 我為汝略說 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有苦  
 假使興害意 推落大火坑 念彼觀音力 火坑變成池  
 或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能沒

12

11

10

9

8

7

(12-4)

(11-4)

(9-20)

(9-2)

(8-17)

(7-3)

巨

害

願

誓

應

妙

(11-10)

(10-5)

(9-6)

(9-1)

(7-15)

坑

說

歷

弘

緣

全文音読して和漢混淆文の響きの美しさに触れましょう。  
 図版中文字で、判然としていないところは、經典の「釈文」中の同字の書き方に倣って書きます。清書の氏名の後に「謹寫」または「敬寫」の二字を書き添えます。

下の「般若心經」か、前頁「法華經」(見開き12行)一巻のどちらかを出品してください。

不二細字研究室 (会友~1級)

石橋暉水先生書

摩訶般若波羅蜜多心經	觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五	蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不	異色色即是空空即是色受想行識亦復如	是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨	不增不減是故空中无色无受想行識无眼	耳鼻舌身意无色声香味觸法无眼界乃至	无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死	亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无	所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无	罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢	想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故	得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜	多是大神咒是大明咒是无上咒是无等等	咒能除一切苦真實不虚故說般若波羅蜜	多咒即說咒曰	揭諦揭諦波羅揭諦 波羅揭諦 菩提薩婆訶	般若心經	奉為二百萬卷寫經發願成就	為 <small>(お願)とをいふこと</small> 異体例 ● 表紙安全 ● 考体健全 ● 字裏成規等 ○ 表紙代(又は表紙の)に家理也	住所	齋戒沐浴 氏名 謹寫
------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------	---------------------	------	--------------	--	----	---------------

※納経料を添えてご出品下さい

延命十句観音經

觀世音南無佛与佛有因与佛  
 有縁佛法僧縁常樂我浄朝念  
 觀世音暮念觀世音念念從心  
 起念念不離心

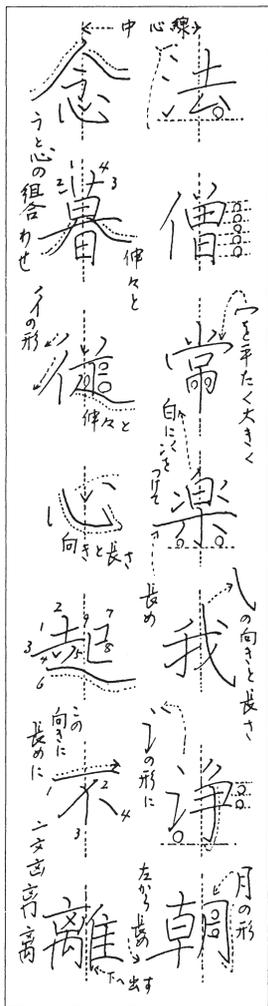


百萬卷寫經數願成就

住所

氏名

敬寫



〔読み〕

延命十句観音經  
 観世音 南無佛 与佛有因 与佛有縁 佛法僧縁 常樂我浄  
 朝念観世音 暮念観世音 念念從心起 念念不離心

〔大意〕  
 観世音 仏に南無したてまつる 仏と因あり 仏と縁あり 仏と法と僧との縁によつて 常・樂・我・浄の四徳を得ん 朝な朝なに観世音を念じ 夕な夕なに観世音を念じ 念々、心より起こり 念々、心を離れず。

不二細字研究室 出品規定

1級以上の出品には納経が必要です。

月例競書にご出品の作品には、バーコード出品券と月別出品券を作品の左下に貼付してください。

■会友・準会友・八段〜1級の方  
 納経料 11500円 \*必ずご納経ください。

①本誌掲載の「法華経」または「般若心経」を書いて出品。  
 ②発表された段級を(会友・準会友は赤、段は赤の漢数字、級は黒の算用数字で)バーコードに記入してください。

③昇格はしませんが、準会友〜1級は天・地で評価されます。

■2級〜10級の方  
 ①「延命十句観音経」を書いて出品。

②2級以下は昇級者に○をつけて発表します。昇級者は次回、発表された一つ上の級位を(黒の算用数字で)バーコードに記入してください。

③初出品の方は10級で出品してください。

編入試験 細字研究室 編入試験料 11,400円

①2級〜10級の課題を書いて出品。

②編入用バーコードに「編入」と赤で記入してください。

③審査後、相当段級に編入します。次回は発表された段級で出品してください。

④試験料免除については本誌「編入試験のご案内」に準じます。

用紙 「般若心経」用(20枚、100枚) 「延命十句観音経」用(100枚)

三多軒で用意しております。(03-3265-5493)

【オンラインストア】 www.santaken.com

送り先 〒101-8358 東京都千代田区西神田 1-1-11

公益財団法人日本書道教育学会「写経事務局」宛(傍線は赤で)

\*写経作品は他の月例競書とは別にして下さい。

納経について

納経は郵便局備え付けの振込用紙をお使い下さい。一卷につき5000円をご入金の上、「振替払込請求書兼受領証」を写経作品に添えてお送り下さい。

振替 □座番号 000401116359211

加入者名 (財)日本書道教育学会 写経事務局

お問い合わせ ☎03-32634-3919

きりとり

納経連絡用紙

公益財団法人日本書道教育学会  
 二百万巻写経実践推進委員会事務局

ふりがな	納経者氏名	住 所
ふりがな	雅号	〒 〒
		電話番号 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

※初めて納経をされる方は、芳名録の作成に使用させていただきますので、この「納経連絡用紙」と共に写経を添えて写経事務局までお送りください。

# 書 蹟 解 説

## 『枯樹賦』 P.4

漢字半紙（五段〜準初段）

北周の有名な詩人である庾信（五一三〜五八一）の撰になる「枯樹賦」を褚遂良が書いたとされている。細字の行書体で書かれており、本文には年記のみで筆者の署名がないものの、書風等から褚遂良が三十五歳の頃に書いたと言いつたに留まらず、運筆はゆつたりと、筆圧の変化もつけており、点画を書くときには紙から筆が離れている時間が長く、運動のおおらかさを感ずる。

## 『鄭義下碑』 P.6

漢字半紙（1級〜5級）

鄭道昭が父の文公（鄭義）の事跡を後世に伝えるために書刻した頌徳碑。北魏碑は方筆が多い中、円筆を加味した六朝楷書の代表的な名品であり、雄大さ、線の粘り、篆の氣勢、隸の韻致、草の性情など全ての要素が備わっていると評されている。この碑には上碑と下碑があるが、上碑は天柱山の頂上に刻されたが石質が悪く、後に雲峰山の摩崖に刻され、それを下碑と呼んでいる。

## 『犀水千字文』 P.8

漢字半紙（6級〜10級）

本会創設者石橋犀水博士による楷行草による千字文の全三巻。昭和丙申（昭和三十一年、一九五六年）、還暦を記念して出版された。この時の楷書千字文は標準字体で書かれているが、十数年後の昭和己酉（昭

和四十四年、一九六九年）には、初唐の褚法にならった楷書千字文のほか、行草全三巻を三週間で書き上げたという。

## 『粘葉本和漢朗詠集』 P.10

かな半紙（五段〜準初段）

藤原公任（九六六〜一〇四一）の手になる朗詠用の歌集。四季別、主題別に漢詩と和歌を交互に記す珍しいスタイルの歌集である。

粘葉本はその写本の一つで、ページ同士を糊で次々と貼りつけて本にする「粘葉装」で装丁されていることからその名がある。現在は宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵されている。書写者は平安時代の名書家、小野道風・藤原佐理と並び「三蹟」として著名な藤原行成（九七二〜一〇二八）と伝えられている。名筆家として讃えられた人物の筆と伝えられた本書は、その形の美しさや流れるような巧みな構成から、高野切と並びかな臨書に広く使われている。

## 『温泉銘』 P.16

漢字条幅（五段〜準初段）

唐の太宗が、貞観二十二年（六四八）五十一歳の正月に温泉を賛美した温湯碑の文を作り、群臣に誇示し、自書して碑に刻したものである。太宗は王羲之の書に傾倒し強い影響を受けており、行書を得意とした。太宗の真跡としてはこの銘が最も筆跡を伝えているとされ、書風は流麗にして適勁、文字の大小にも奔放自在さを感じられる。

### ◆次号課題予告

#### 漢字半紙

- 五段〜準初 …… 曲抱雲門 （枯樹賦）
- 1級〜5級 …… 才徳相承 （鄭義下碑）
- 6級〜10級 …… 金生麗水 （犀水行書千字文）

#### かな半紙

- 五段〜準初 …… わかこまつけふるあひくるあやめくさ （粘葉本和漢朗詠集 卷上 157、158）
- 1級〜5級 …… かめ尔さすふちの花ふさみし可けれ （通信教育 書道基礎科講座教科書より）
- 6級〜10級 …… わかよたれそ つねならむ （新和様半紙）

#### 新和様半紙

- 五段〜準初段 …… 未定
- 1級〜10級 …… 若鮎やうつ、心に石の肌 （温泉銘）

#### 漢字条幅

- 五段〜準初段 …… 孰長齡之可希 未若茲泉 （温泉銘）
- 1級〜10級 …… 郊原雨初霽 （新古今和歌集 186）
- かな条幅 …… 花散りし庭の木の葉も茂りあひて （新古今和歌集 186）

- 1級〜10級 …… 未定

#### 新和様条幅

- 五段〜準初段 …… 湯の宿の山の若葉に夜あらしの立ち （新古今和歌集 186）
- そよぎゆく音ぞきこゆる

#### 不二篆刻研究室

- 規定 …… 鶯喚醒
- 一字書 …… 随意 …… よ
- 規定 …… 萌

※課題は変更することがあります。  
※会友〜準六段の課題予告は2ページをご覧ください。

## 不二篆刻研究室

▼規定：左の語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

### 戯蝶遊蜂

〔読み〕 ぎちようゆうほう  
 〔出典〕 唐・岑参「山房春事」  
 〔大意〕 蝶は戯れ蜂は遊ぶ。

▼随意：好きな語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

○作品は「半紙横 $\frac{1}{2}$ 」を縦長にして体裁よく押印し、印影を提出。  
 ○巻末の出品要項をよく読んでご出品ください。

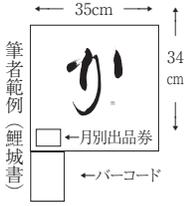
## 一字書

▼規定：左に示す漢字「夢」を一筆書として墨継ぎすることなく「書」しなさい。



〔読み〕 「音」ム・ボウ  
 〔訓〕 ゆめ  
 〔意味〕 ゆめ。はかないもの。はつきりしない。  
 〔おすすめ的用紙〕 萬象 50枚 (夾宣)  
 作品の左下に教室名・氏名・会員番号・段級を鉛筆で記入のこと。

▼随意：左に示す平かなに連筆の呼吸を吹き込んで生命ある字に仕立てなさい。



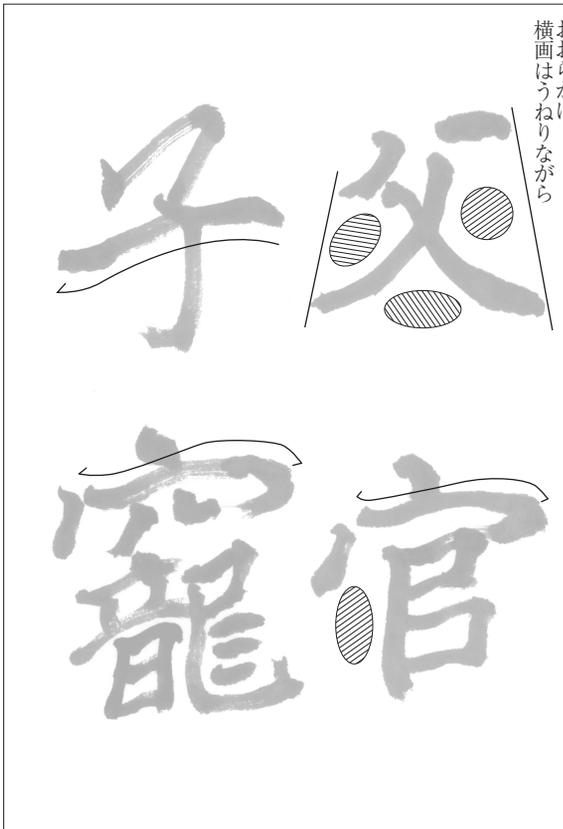
仮名の成り立ちや草書の「加」の書法、筆遣いも考えて創作すること。  
 (書体自由)  
 〔おすすめの利用〕 一字書 100枚 (夾宣)  
 特選一字書 100枚 (夾宣)  
 作品の左下に教室名・氏名・会員番号を鉛筆で記入のこと。

○バーコードは、段級欄に「二字書規定○段(級)または「二字書随意」と書いて貼付してください。(規定の方は段級を忘れずに)  
 ○落款は印のみか一字に雅印ぐらいいで。  
 ○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。

## 課題解説

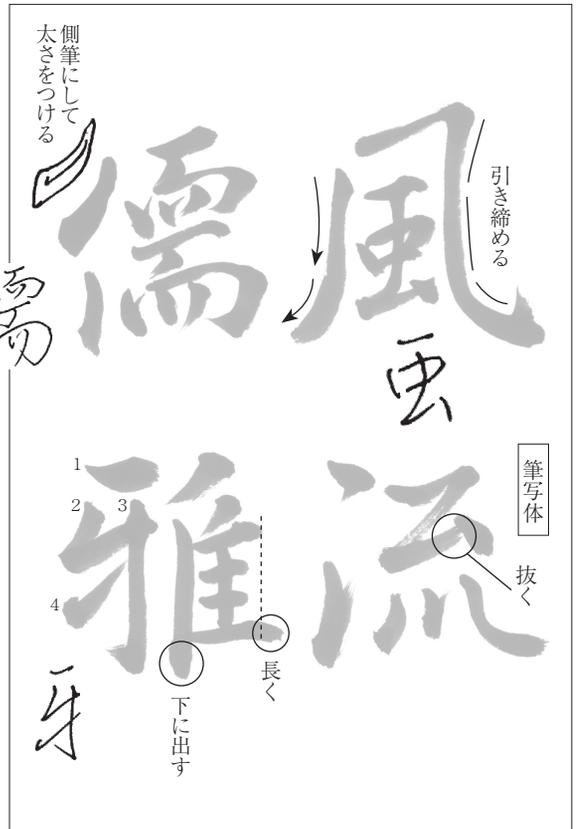
今月の出品期間  
 4月1日(月)～4月10日(水)必着

漢字半紙 1級～5級



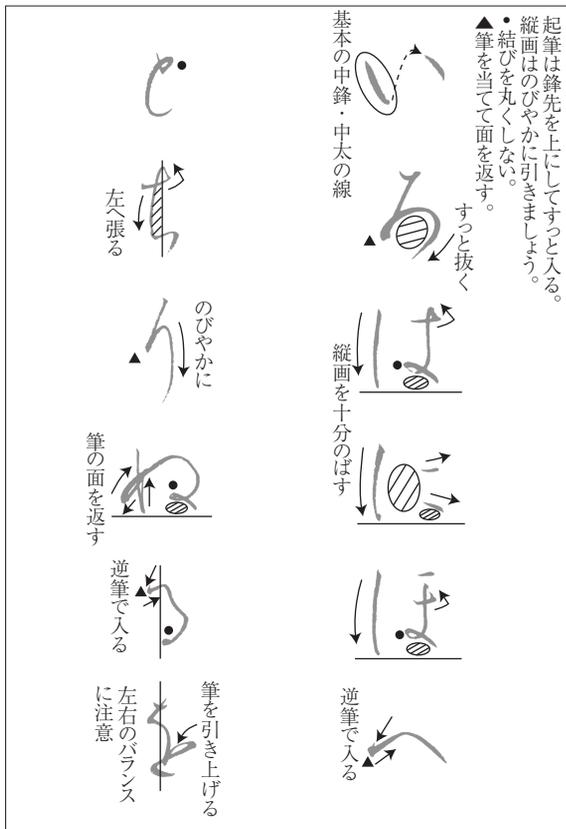
(永井香樹)

漢字半紙 五段～準初段



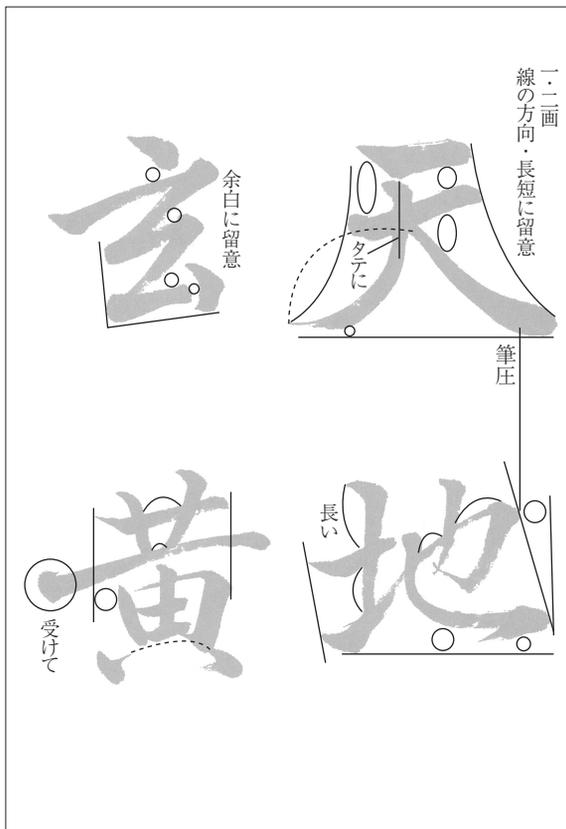
(小久保嶺石)

かな半紙 6級～10級



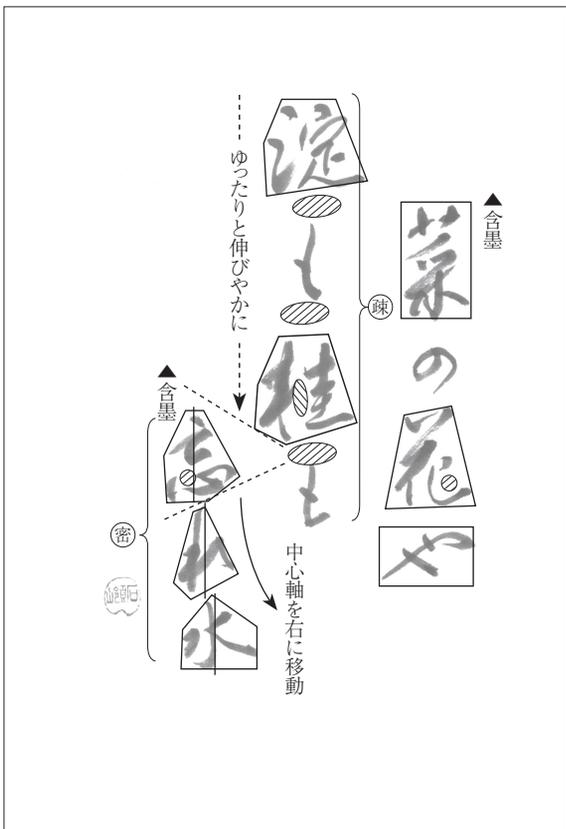
(解説 川島史子)

漢字半紙 6級～10級



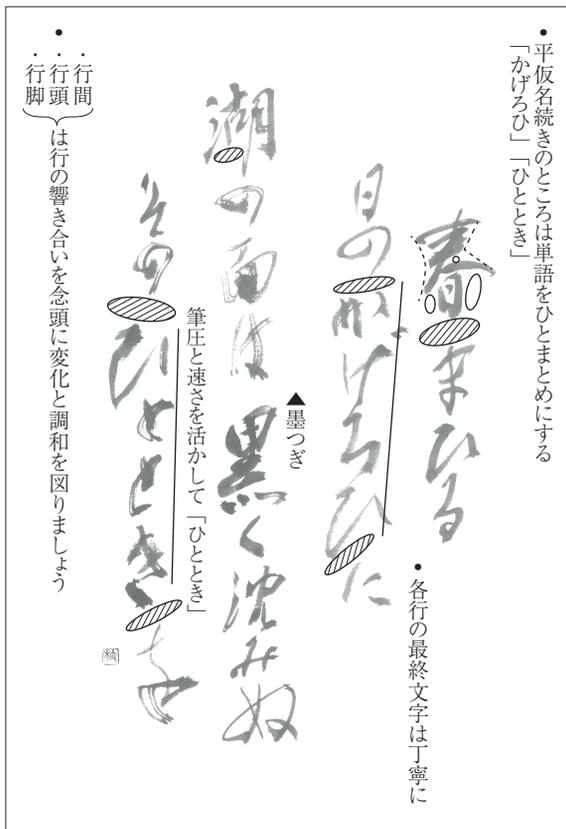
(解説 永井香樹)

新和様半紙 1級～10級



(小久保嶺石)

新和様半紙 五段～準初段



(永井香樹)

かな条幅 五段く準初段

(須山万寿)

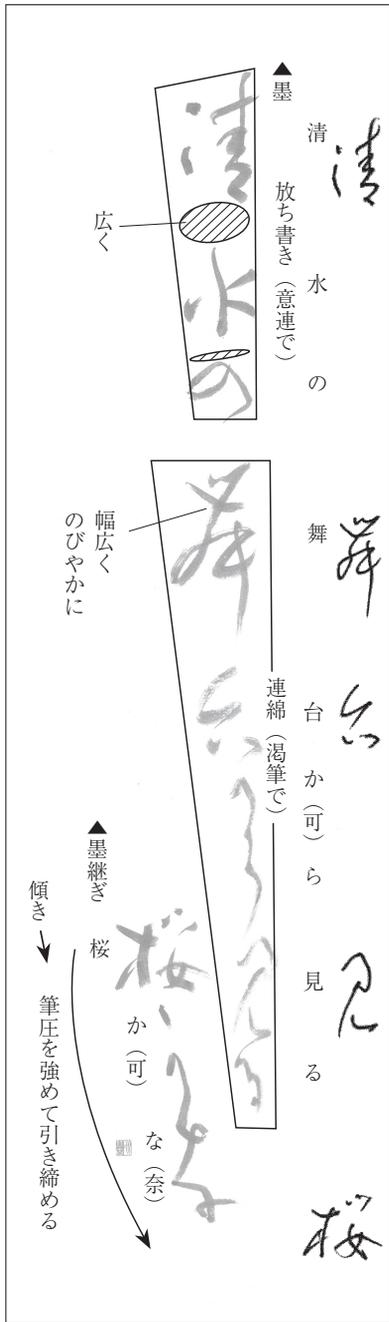
- 書き出しの「さくら花」はゆったりと書く。「ゆ免可うつ」で密に、「かしら雲の」と二行目上部は伸びやかに書く。
- 「ら花」「えて」は遠い連綿ですが連綿をすることにより大きな間を作ることが出来ます。(遠い連綿はしない事が多いですが)
- 文字の内部が狭くならないよう、騒がしさを感じさせないように書くことを心掛けました。
- 「み年の春可せ」は一気に書いて締める。

〈用具・用材〉

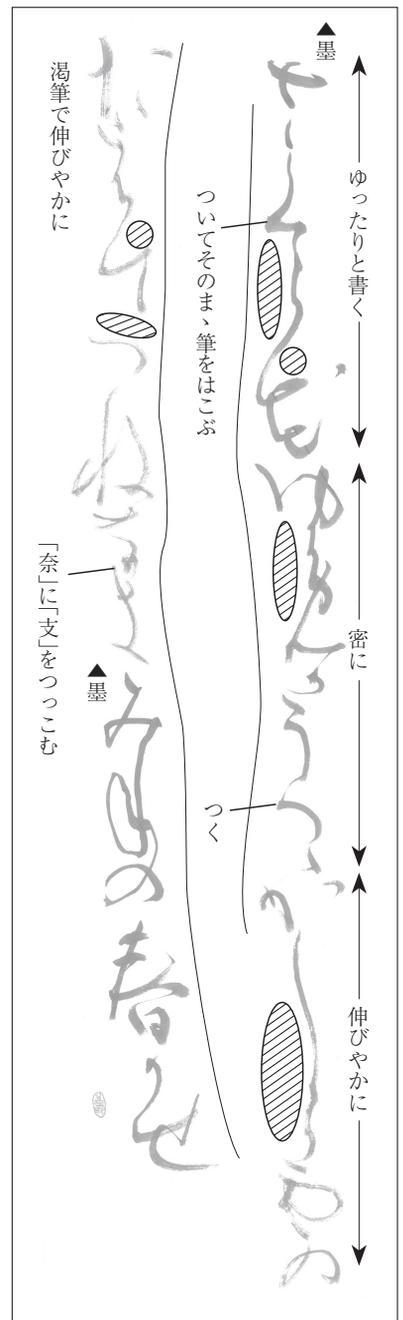
筆 Ⅱ 羊毛筆

墨 Ⅱ 和墨

用紙 Ⅱ かな用加工紙



清水の舞台から見る桜可奈



かな条幅 1級く10級

(中島永岳)

- 一行目には、目に見えない筆脈によって文字と文字を繋げる「意連」があります。
- 二行目は、一行目に添わせるように右下へ引き込んで一体化させます。

〈用具・用材〉

筆 Ⅱ かな用条幅筆

墨 Ⅱ 和墨

用紙 Ⅱ かな用加工紙

# 競書出品要項

## 《バーコード出品券・月別出品券の貼り方》

\*バーコード出品券の左から8桁があなたの会員番号です。  
\*「部門」欄が空白のタイプのバーコード出品券をお使いの方は、  
出品部門(月別出品券と一致したもの)をご記入ください。  
\*色付きのバーコード出品券は、原本です。白黒でコピーしたものを  
お使いください。

**教室名**

**段** ← 赤で漢数字  
準会友の方は必ず「準会友」とお書きください。

**氏名** ← 黒で算用数字

**級** ← 毎月不二誌に掲載される月別出品券(該当部門のもの)を貼付してください。これがない作品は、審査されません。

一般版  
2024.4月号  
漢字半紙

出品する誌名に○をつけて下さい。  
中高版・一般版・ペンのか・上級版  
書学 山本 準子

部門  
漢字半紙 (漢字条幅)

現段(赤で書く) 現級(黒で書く)

段 5 級

本誌の中のみ記入  
現在の段級を正確に記入して、作品の左下ののりつけて下さい。

401000010004

出品する誌名に○をつけて下さい。  
中高版・一般版・ペンのか・上級版  
書学 山本 準子

部門  
漢字半紙 (漢字条幅)

現段(赤で書く) 現級(黒で書く)

段 5 級

本誌の中のみ記入  
現在の段級を正確に記入して、作品の左下ののりつけて下さい。

401000010004

段級を記入してください。(段は赤で左に漢数字で、級は黒で右に算用数字で)

作品に記入した段級と一致しているか確認してください。このバーコード出品券がないと成績発表できません。

## 《バーコード出品券の記入の仕方》

「部門」欄が空白のタイプのバーコード出品券をお使いの方は、色付きのバーコード出品券(原本)を白黒でコピーしたものに、ご自分のよく出品される部門を書き入れてからコピーをとると、出品のとき○をつけるだけなので便利です。  
出品部門の記載されたバーコード出品券をお使いの方は、出品部門に○をつけて下さい。

### 一般版競書規定

- 一般版を購読する会員は、会員として登録し、月例競書の課題を出品し、審査を受けることができます。
  - 成績は誌上に発表し、優秀作品は写真版とします。
  - 課題出品は10級から始め、審査によって一階級ずつ昇級します。
  - 昇級を認める場合は、氏名の上に○印をつけて発表しますので、その部門は、次回出品の時は一階級上の級位で出品して下さい。6級から5級に昇級した場合は課題が変わりますので特に注意して下さい。
  - 1級から八段の方は昇格・昇段試験(6月、9月、12月、3月と年に4回実施)によって昇格・昇段します。
  - 昇格・昇段を認めた場合は、昇格・昇段した段・格位で発表します。次回出品の時は、新しい段・格位で出品して下さい。1級から準初段に、及び五段から準六段に昇段した場合は、課題が変わりますので、特に注意して下さい。
  - 準会友・部門別会友・会友は月例審査、昇格・昇段試験によって昇格することはありません。
  - 4月に提出する出品作品は4月号の課題をお書き下さい。
  - 出品の際に最新保有段級を見て段級間違いのないようにご出品ください。4月号作品の審査結果は6月号に発表となります。
  - 課題提出期間は厳守して下さい。
  - 封筒には「4月号競書在中」と、朱で明記して下さい。
- 会員登録する時点で、すでにある程度の書歴がある方は編入試験を受けて、相当する級位からスタートできます。「編入試験のご案内」をご覧ください。
- 二年間全く出品されなかった場合は、会員の登録が取り消され、休会者として登録します。再度競書出品をなさる場合、再登録手続きが必要となります。

### 《競書送り先・持参先》

〒101-8358 東京都千代田区西神田2-2-3  
公益財団法人 日本書道教育学会  
-4月号競書在中- (朱書)  
TEL 03-3234-3956 FAX 03-3234-3548

### 《条幅部門》

月別出品券の貼付位置、バーコード出品券の貼付位置は半紙と変わりありません。

教室名、段級位、氏名、会員番号

段級位はこちらに記入して下さい。(段は赤で漢数字、級は鉛筆で算用数字)

このように一番下に、教室名、氏名(号)、会員番号を鉛筆で記入して下さい。

●バーコード出品券と月別出品券の2枚が貼られていない作品は、理由の如何にかかわらず、審査いたしませんのでご注意ください。

※バーコードの発行が間に合わない場合、初回の出品に限りバーコード出品券は必要ありません。作品左下に「バーコード申請中」と朱書きしてご出品ください。

※月別出品券を紛失した場合は一部門ごとに郵便小為替500円(指定受取人欄に公益財団法人 日本書道教育学会と記入)を送ってください。(切手代用不可)

※段級は部門ごと独立のもので、有段者は5部門に出品できます。(注、1部門でも有段であれば5部門〔新和様有段者は新和様条幅を含む6点〕出品できます。) 1級以下は3部門までです。(細字、篆刻、実用書、一字書は部門数に含まれません。)

一般版 2024.4月号 新和様半紙	一般版 2024.4月号 新和様条幅	一般版 2024.4月号 一字書規定	一般版 2024.4月号 篆刻規定	4月号月別出品券
一般版 2024.4月号 かな半紙	一般版 2024.4月号 かな条幅	一般版 2024.4月号 一字書随意	一般版 2024.4月号 篆刻随意	
一般版 2024.4月号 漢字半紙	一般版 2024.4月号 漢字条幅	一般版 2024.4月号 実用書	一般版 2024.4月号 細字	

### 《4月号競書出品期間》

締切厳守 締切を過ぎて届いた作品は審査されません

4月1日(月)～4月10日(水)必着

最新保有段級を見て出品のこと。

\*5月号は4月1日(月)～4月3日(水)に発送いたします。  
\*5月号誌上発表の成績(3月号競書作品成績)は本会ホームページ(3月27日(水)に更新)でもご確認頂けます。IDは8095。

# 不二誌購読のご案内

〈お問い合わせ・お申し込み先〉

〒101-8358

東京都千代田区西神田2-2-3

公益財団法人 日本書道教育学会 会員登録係

☎03-3234-3962

下記手続き用紙が必要な方は会員登録係までお申し込みください。

## ■新規会員登録 ①新規会員登録申し込み書

「不二」「ぺんの力」の競書出品には、あらかじめ「新規会員登録」が必要です。

「新規会員登録申し込み書」に必要事項をご記入の上、返信用封筒（切手貼付）と共にお早めにお申し込みください。お申し込みより1か月ほどでバーコード出品券を発行いたします。

- ご出品いただく誌別を○で囲んでください。
- 幼年～高校生の方は学年をご記入ください。
- お名前・フリガナをご記入ください。雅号をご記入の方は、雅号での登録となります。
- 登録する本人のお住まいの都道府県名をご記入ください。
- 二文字以内で教室名をご記入ください。教室へ所属していない方も教室名の登録が必要です。（住所や名前の一部、アルファベット、数字なども可）
- 登録する本人の住所・連絡先をご記入ください。本人住所が未記入の場合、会員登録・バーコード出品券の発行はできません。
- 教室長または世話係（既に不二誌の購読をされている場合、代表者の方）がいらっしゃる場合のみ、ご記入ください。

\*「会費申し込み」欄は現金書留で会費をお送りいただく方のみご記入ください。指定口座振込の場合は記入の必要はありません。

- 教室又は世話係でとりまとめて会誌を購読する場合は別途部数変更のお手続きをお願いいたします。
- 現金書留で会費をお送り頂いた場合は、「会費申し込み」に記載された会誌を個人宛てにお送りいたします。なお、会費は前納制となっております。会費の納入は6ヵ月分または12ヵ月分いずれかでご入金ください。

※指定口座へお振り込み頂く場合は別途ご案内用紙「不二誌新規購読申し込みのご案内」を参照ください。（お手元がない場合は会誌係までご請求ください）

以上を用紙にご記入の上、返信用封筒（定型最大12cm×23.5cm。住所・氏名を記入、110円切手貼付のこと）、を同封し、上記までお送りください。現金書留の場合は会費と合わせて新規登録申し込み書と返信用封筒を同封ください。

## <編入試験課題のご案内>

新規会員の方は10級から出品することを原則としていますが、編入試験は他の会で既に段級を取得している方、通信教育講座や書学院を受講した方で、実力相応の段級に編入を希望する方のために実施しているものです。詳細は弊社ホームページ（QRコードよりアクセス）をご覧ください。編集部までお問い合わせください。（公益財団法人 日本書道教育学会 編集部 ☎03-3234-7461）



<https://www.nihonshodou.or.jp/fuji/kadai.html>

## ■バーコードの変更 ②変更・再発行申し込み書

登録の教室名・名前を変更する方

例…「千代」教室より「神田」教室へ変更したい。  
「不二太郎」より「不二書翠」へ変更したい。

\*年度の切り替わりで初級版→上級版→中高版→一般版・ぺんの力に移行する際は、バーコードはそのまま使用できます。

\*一般版とぺんの力のバーコードは共通です。

## ■バーコードの再発行 ②変更・再発行申し込み書

バーコードの原本を紛失し、再発行を希望する方

必要事項ご記入の上、手数料と共に会員登録係までお送りください。（各種手数料と入金方法は以下の一覧表を参照ください）

登録関係	手数料一覧	一般版・ぺんの力	中高版	上級・初級版
新規登録		無料	無料	無料
変更		650	550	500
再発行		650	550	500
段級復活		2,000	2,000	2,000
再登録（10級から）		無料	無料	無料

## ■段級復活 ③段級復活申し込み書

「不二」各誌および「ぺんの力」では、2年以上どの部門にも競書出品のない方は、登録者リストより休学者リストに移行します。

再度競書出品をなさる場合、再登録手続きをすることで過去に取得した段級が再認定されます。

\*段級を復活せず10級から始める場合は再登録料は必要ありませんが、会員番号の再登録が必要なため出品前に一度ご連絡ください。

\*復活希望の学年によっては、当時の段級から切替えが必要になる場合があります。詳しくは会員規定を参照ください。

必要事項ご記入の上、手数料2,000円と共に会員登録係までお送りください。名前や教室名を併せて変更したい場合は備考欄に記載してください。（変更手数料は段級復活手数料2,000円に含まれます。）

## ■入金方法

指定口座振込	ゆうちょ00100-7-325693（公財）日本書道教育学会 手数料口）*会費口とは別
現金書留	必要手数料（現金）と申込用紙を同封の上お送りください
定額小為替	定額小為替と申込用紙を同封の上お送りください
会費付け替え	教室長のみ（別途付け替え手数料330円がかかります）

漢字かな交じり書と漢字造型の二つの新しい書美の探究を目指す

# 第37回 不二現代書展

**会場** 兵庫県立美術館ギャラリー棟 3階 ギャラリー  
(兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1-1)

**第一会期** 令和6年3月26日(火)～28日(木)  
26日(火) 15時開展～18時(入場は17時30分まで)  
27日(水) 10時～18時(入場は17時30分まで)  
28日(木) 10時～15時閉展

**展示作品** 文部科学大臣賞・兵庫県知事賞 他 特別賞作品(公募および役員)  
公募賞候補入選および入選作品

**第二会期** 令和6年3月29日(金)～31日(日)  
29日(金) 10時～18時(入場は17時30分まで)  
30日(土) 10時～18時(入場は17時30分まで)  
31日(日) 10時～14時閉展

**展示作品** 文部科学大臣賞・兵庫県知事賞 他 特別賞作品(公募および役員)  
審査会員および無鑑査作品

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会  
【後援】文化庁・兵庫県・神戸市・神戸市教育委員会

書道・ペン・篆刻の教室 4月受講生募集

## 書学院

見学随時受付中!

体験入学実施中!

古典臨書や写経、作品研究を中心とした特設科コース、  
指導者養成セミナー等、多数の講座をご用意しております。

### ◆体験入学スケジュール◆

書道			
4/16(火)	10:00~11:30	4/23(火)	10:00~11:30
4/17(水)	13:00~14:30	4/24(水)	13:00~14:30
	18:30~20:00		18:30~20:00
4/19(金)	18:30~20:00	4/26(金)	18:30~20:00
4/20(土)	13:00~14:30	4/30(火)	10:00~11:30
ペン		篆刻	
4/16(火)	18:30~20:00	4/20(土)	10:00~11:30
4/23(火)	18:30~20:00	4/28(日)	10:00~11:30
4/24(水)	10:00~11:30		
4/30(火)	18:30~20:00		

※詳細は本誌64頁をご覧ください。

# 書作展 2024

4/26[金]～4/28[日] 入場無料

〈会場〉神田書学院(書道学会ビル3・4F)  
東京都千代田区西神田2-2-3  
TEL 03-3234-3956

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会 書学院

段級	会員番号
漢字半紙	
かな半紙	
新和様半紙	
漢字条幅	不二教室
かな条幅	氏名
新和様条幅	
細字	
篆刻	
一字書	

公益財団法人 日本書道教育学会 書学院

神田書学院 (03) 3265-5491  
川奈書学院 (0557) 45-3265  
<https://shogakuin.nihonshodou.or.jp/>

右のQRコードから  
お申し込みください。

